

会 議 録					
令和元年度第3回 在宅医療・介護連携推進 会議		日 時	令和2年2月6日(木) 午後7時～午後8時17分	場 所	小金井市役所 第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課				
出 席 者	委 員	委員長 齋藤 寛和 副委員長 森田 洋彰 委員 橋詰 雅志 委員 漆原 めぐみ 委員 岩井 美香 委員 吉川 裕 委員 小川 力信 委員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター) 委員 高橋 徹 (小金井ひがし地域包括支援センター) 委員 田口 重和 (小金井みなみ地域包括支援センター) 委員 久野 紀子 (小金井にし地域包括支援センター)			
	事務局	高齢福祉担当課長 平岡 美佐 介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	1人		
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—			
次 第					
1 開会					
2 議題					
(1) 進捗を把握するための指標の検討					
(2) 基本理念の検討					
(3) 市の取組状況等について					
(4) 令和元年度お元気サミット in 小金井について					
3 その他					
4 閉会					

## 1 開会

高齢福祉担当課長の挨拶、事務連絡を行った。

## 2 議題

### (1) 進捗を把握するための指標の検討

(事務局)

資料1は、第1回・第2回の会議で示した指標を一覧にまとめたものである。

資料2は、令和元年6月19日に示された「在宅医療にかかる地域別データ集」の平成29年度数値に、直近3年間の数値を加えたものである。

今後は、連携を進めるに当たっての課題を解消するための取組を検討していきたいと考えており、取組ごとに進捗を計る指標を、資料1の中から選んでいきたい。

また、不要な指標や追加すべき指標等あれば意見いただきたい。

当日配付資料1は、平成30年7月1日から令和元年6月30日までの1年間の在宅医療の実施状況で、令和元年10月に厚生労働省の関東信越厚生局から東京都を通じて情報提供があったものを資料化したものである。

(齋藤委員長)

指標として取り入れてほしいもの、不要だという意見はあるか。

(事務局)

手順としては、この後、基本理念をまずは定めていきたいと考えている。その基本理念に基づいて、市で実施していく取組を定めていきたい。その取組が適切に行われているか図るため、数値を見ていきたいと思っている。最終的には取組に対して指標が結びついてくると考えている。

現状把握として資料を示しているが不要なものについての意見ももらいたい。

(齋藤委員長)

資料2は、重要な資料だと思う。

当日配付資料は、自治体によって乖離が大きく、疑問である。国分寺市や多摩市の患者数が異様に多い。また、昭島市の訪問看護の回数も異様に多い。

(事務局)

数字自体は、東京都を介して国から提供いただいた資料をそのまま転記しているので、誤りではないと思う。

(森田委員)

例えば、武蔵野市の医療機関数は3倍に対し、診療患者数は2倍にも満たない。多摩市の医療機関数は3倍に対し、患者数は9倍である。

小金井市の推移を計る上では役に立つ資料かもしれないが、ばらつきが大きいいため、他市との比較は難しい。

資料2は過去に遡ることが可能であり、推移を計ることが可能であるが、当日配

付資料は数字に疑問が残るし、指標とすることに懸念がある。他市も同じデータを用いているのか。

(事務局)

他市にも東京都内の一覧が送られており、資料化することは可能だが、他市の会議体でこの指標を用いているかは不明である。

前回の会議以降、東京都を介して国から情報提供があったので資料として示したものである。

(齋藤委員長)

他市の数字については、再度検討が必要である。

ほかに意見がなければ、指標については今後もこれらの数値を計ることとし、不要となった時点で削除することとする。

## (2) 基本理念の検討

(事務局)

資料3は、前回委員からいただいた意見をもとに、事務局にて作成した基本理念の案である。本日は、この案に対して、意見をいただきたい。主語の要否についても検討いただきたい。

(小川委員)

基本理念の4番は、あえて「心」という文言を入れたのか、入れた理由を教示願いたい。

(事務局)

前回会議で森田委員から意見があったので入れた。議論の結果、削ることも可能である。忌憚のない意見をいただきたい。

(森田委員)

ニュアンスとして伝えたかったことは、4番の内容である。ただ、「心」という言葉がここではそぐわないとも思う。「健康」という言葉では、一般的に「体の健康」しか想像できないと思うので、「精神的な健康」という意味で、「心」とするしかないと思う。

4番に関して、他の委員の意見も伺いたい。

(齋藤委員長)

「体」に対して、「心」ということか。

(森田委員)

そのとおりである。「病気だと健康ではない」という捉え方をしてほしくないと考ええる。

(齋藤委員長)

「医療や介護が必要」に対して「心」が来るから、違和感があるのかもしれない。

(漆原委員)

「心が健康」というフレーズは良いと思うが、「医療や介護」に対して「心が健康」というのは、文章的に引っかかってしまう。

(森田委員)

日本WHO協会の「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます」という健康の定義があるが、ここでは「医療」も「介護」も書いていないし、「心」とも書いていない。

(小川委員)

「体の健康」や「医療や介護」という文言を入れなくても、日本WHO協会の理念に適合していると思う。

(吉川委員)

例えば、「なっても」と「心」の間に読点を入れると、文章としての印象は変わるような気がする。

(齋藤委員長)

4番については一度保留して、1番から3番までについてはどうか。

この3つはとても良いと思う。

(久野委員)

小金井市の場合、日野市のように「基本方針」とか、国立市のように「地域医療計画」というような名称が付くのか。

(事務局)

前々回の会議で、日野市の基本方針のように示すものがあつた方が良いという議論があり、このような検討を行っている。「目指す理想像」を定め、今その下の「基本理念」を検討している。今後、「基本理念」の下に「取組」を定め、その後を取組状況を把握するための「指標」を定め、最終的にはそれらが市の方針になっていくと考えている。

(齋藤委員長)

東京都で地域医療構想を策定しており、各圏域の方針はあるが、市の中の医療構想や地域医療計画というものはない。武蔵野市や国立市では地域医療計画や基本理念を定めているが、小金井市には保健福祉総合計画という健康づくりに重点を置いたものしかない。

今後、地域医療計画等が必要と考えており、医師会と市とで協議することになっている。在宅医療・介護連携の方針ができれば、地域医療計画の中にそれを組み込んでいくことは、可能だと思う。

基本理念に関する議論に戻りたい。

(小川委員)

「心が健康である」を「自分らしさ」や「穏やかに生きる」等に言い換えられな  
いかと思う。「目指す理想像」の「いつまでも自分らしく」というものをうまく入れ  
られると良いと思う。

(森田委員)

「健康」という言葉を入れたため、「健康」を「心」と「体」に分断して考える方  
向になってしまっている。「健康」という言葉を使わないで、「自分らしさ」や「安  
心して」というものを表現してはどうか。

例えば、4番は消して、指標で安心とはどういうことかを計ってはどうか。例え  
ば、「体」の健康として、動かしたいところを思うように動かせる、したいことをで  
きるというものと、「心」の健康として、動けなくてもほっとできる、幸せだと感じ  
るというものを指標とするのも良いと思う。あえて、理念に入れなくても「安心」  
という言葉がそれを補ってくれると思う。

(齋藤委員長)

そうすると、1番の基本理念と同じ内容になる。

(森田委員)

同じ内容になるので、4番は消してしまっても良いと思う。

「目指す理想像」の「住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく穏やかに暮らせ  
るように」というところが1番に入っていて、「地域の医療・介護関係者が連携し」  
というところが2番に入っていて、「本人の自己決定を支えていく」というところが  
3番に入っているので、4番はやはり異質な感じがするので、おそらく委員でない  
方が読んでも引っかかると思う。

(齋藤委員長)

1番の「地域で安心して暮らせる」という中に、「心の健康」という意味も入って  
いるから、いらなないかもしれない。

では、1番に心の健康を含めた指標や目標値を加えて、4番は削除ということで  
良いか。

(「異議なし」と声あり)

(齋藤委員長)

主語がないことについて、意見はあるか。

最初に、「在宅医療・介護連携に係る基本理念」とあるので、主語はなくて良いと  
思うがいかがか。

(「異議なし」と声あり)

(3) 市の取組状況等について

(事務局)

資料4は、在宅医療・介護連携に係る市、関係団体の取組状況を国の定める(ア)

から（ク）ごとに分類した資料である。

本日はこれらの取組を、基本理念の1番から3番までのどの理念に当てはまる取組なのかを検討いただき、この理念を達成するために市としてさらに実施すべき取組等があれば、議論いただきたい。

（小川委員）

重複しているものはどう取り扱うか。

（事務局）

1番から3番までの全ての基本理念が当てはまるとしても良いし、1つだけが当てはまるとしても良い。

（齋藤委員長）

（ア）は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

（小川委員）

1番と3番が当てはまると思う。

（齋藤委員長）

資源を把握すると、医療・介護関係者の相互の理解も深まるような気はするので、2番も当てはまると思う。

（橋詰委員）

全てのベースに、把握が必要だと思う。

（齋藤委員長）

では、1番から3番まで全部が当てはまるとしたいがいかがか。

（「異議なし」と声あり）

（齋藤委員長）

（イ）は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

（森田委員）

2番が当てはまると思う。

（齋藤委員長）

では、2番が当てはまるとしたいがいかがか。

（「異議なし」と声あり）

（齋藤委員長）

（ウ）は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

（森田委員）

患者基本情報シートの中に患者の意思が入ると思うので、2番と3番が当てはまると思う。

（事務局）

患者基本情報シートは、患者・利用者のかかりつけ医、かかりつけ薬局、利用しているサービス等の客観的情報を示したシートである。

(森田委員)

では、3番は当てはまらない。

(岩井委員)

1番も当てはまると思う。

患者も、それがあつて、言わなくても情報を加味してもらえつてという安心感もあると感する。

(齋藤委員長)

では、1番と2番が当てはまるとしたいがいかがか。

(「異議なし」と声あり)

(齋藤委員長)

(エ)は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

2番が当てはまるとしたいがいかがか。

(「異議なし」と声あり)

(齋藤委員長)

(オ)は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

2番が当てはまるとしたいがいかがか。

(「異議なし」と声あり)

(齋藤委員長)

(カ)は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

2番が当てはまるとしたいがいかがか。

(「異議なし」と声あり)

(齋藤委員長)

(キ)は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

(小川委員)

1番と3番が当てはまると思う。

(齋藤委員長)

1番と3番が当てはまるとしたいがいかがか。

(「異議なし」と声あり)

(齋藤委員長)

(ク)は、基本理念の1番から3番までのどこに該当するか。

2番が当てはまるとしたいがいかがか。

(「異議なし」と声あり)

(齋藤委員長)

現存しているいろいろな取組を分類したが、足りないところをどう保管していくか。特に、市民向けの事業が少し足りないという印象がある。

取組が薄いものについて、新たな取組を追加しても良いと思う。何か具体的な意

見があれば意見いただきたい。

(森田委員)

これらの事業はそもそも市民のためにやっているのだから、研修会のようなものに市民も巻き込んでいったり、市民にやっていることを周知したりすることで、基本理念の1番や3番につなげていくことができると思う。

今のところは、何か不足というよりは、ステップの段階だと思う。

(齋藤委員長)

お元気サミット等もう少し広報を上手にやれば、多くの来場者が見込めると思う。

昨年度の看取り講演会に私の患者も何人か来ていて、「医師や介護職が集まって、ああいう研修をやっているというのは、非常に心強く、とてもうれしかった」という感想をもらった。そういった取組をどんどんしていけば良いと思った。

(小川委員)

地域への啓発というところでは、周知方法についても同時に考えていっても良いと思う。

(齋藤委員長)

地域包括支援センターでは、市民への情報発信はやっているのか。

(高橋委員)

どう広げていくのかというところが課題と思っている。

ひがし包括としては、お元気サミットや地域のサロンの情報を集約する形で、配布しているが、手にとってくださるところにしか届けられていない。病院、薬局等に届ける仕組みづくりが今後の課題と思っている。

介護に関して、目の届くような形で啓発するのは大事だと思っている。

(岩井委員)

次回、令和元年度に市民に対してどんな催しを各団体で開催し、どのぐらいの来場者があったのか資料として一覧で見られると、検討できると思う。すごく大変だとは思いますが、実績が知りたいと思う。

(齋藤委員長)

宿題としたい。

(橋詰委員)

市民を呼ぼうとしてもポスターを貼っていても絶対に来ない。地域の顔が広い人に直接渡して、呼び掛けてもらうようお願いしないと絶対に来ない。

(齋藤委員長)

顔が広い人をどうやって見つけるかも課題が残る。

1年間の事業のカレンダーをつくって、それを病院、診療所、介護施設等に掲出するのも有効だと思うが、まずは実績を知ることが重要かもしれない。

(4) 令和元年度お元気サミットin小金井について

(事務局)

資料5は、登壇者等をまとめた資料である。

内容は、実行委員という形で、選出いただいている森田委員、小川委員とも調整の上、定めたものである。

周知について、協力願いたい。

(齋藤委員長)

イベント当日の配付資料等はあるのか。

(事務局)

行政が行うイベントなので、特定の施設の紹介となると、特定企業の宣伝となるため、難しいと考えている。ただ、施設全体の概要、概算費用、強み、受けられる人等を1枚にまとめた資料は配りたいと思っている。

(齋藤委員長)

認知症の講演会についても説明願う。

(事務局)

2月21日の午後2時から3時30分まで、丹野智文さんを招き、「認知症とともに生きる～認知症になったら終わりなんて言わせない～」という題で講演を行う。

(森田委員)

パネルディスカッションの来場者はどの程度見込んでいるか。

(事務局)

80人程度を見込んでいるが、後から椅子を足すことは可能である。

(齋藤委員長)

パネルディスカッションは事前申込制ではないのか。

(事務局)

当日先着順である。

3 その他

次回の会議は、令和2年7月2日を予定

4 閉 会